

明日に吹く風



みなさんこんにちは♪新年がはじまり早1ヶ月が経ちました。時が流れるのは早いですね…。毎日のように寒い日が続いていますが、体調を崩さないように気を付けましょう！

もうすぐ春休み。寒い日は、本とともに、温かい図書館で過ごしてみるのもいいかもしれませんよ(^ ^)

～図書館サポーター推薦図書～

- 「子どもの発達と学童保育—子ども理解・遊び・気になる子」著 田丸敏高、他 福村出版

【369.42 || Ta79】B1F 閲覧室和書

みなさんは、「学童保育」という言葉をご存じでしょうか？学童保育とは、共働きのご家庭の児童(小学生)を、放課後預かる場所のことです。分かりやすく言うと、「保育園の小学生版」といったところでしょうか。読者の方の中には、以前通っていたり、あるいは、現在お子さんを預けていたりする方もいらっしゃるかと思います。この著書は、学童保育の現状や課題、学童保育の辿ってきた歴史や今後の展望などが紹介されています。特に、「障害児と接する際のポイント」や、「学童保育と小学校の連携」などは、非常に興味深いテーマです。

学童保育所でアルバイトをしている方はもちろん、教師や保育士、幼稚園教諭を目指している方、福祉を学んでいる方が、この著書を手に取り、「学童保育」を知って頂ければ幸いです。(K.U)



- 「夜は短し歩けよ乙女」森見登美彦著 角川書店【913.6 || Mo54】B1F 閲覧室和書

「四畳半神話体系」でも有名な森見登美彦さんの代表作です。

マイペースで好奇心旺盛な黒髪の乙女と、彼女に恋するさえない先輩による恋愛ファンタジー物語。

京都の某国立大学に通う先輩(私)がクラブの後輩である黒髪の乙女に一目惚れをし、何とかして気を惹こうと度々偶然を装って彼女の前に現れるのですが、そのたびに一癖も二癖もある奇人変人達が織り成す珍事件に巻き込まれてしまいます。古風な文体とセリフ回し、摩訶不思議な登場人物たち、リアルと幻想が混じり合った京都の舞台が作り出す独特な世界観が魅力的な作品です。

興味を持たれた方は一度手にとって読んでみて下さいね。(Y.Y)

- 「坂の上の雲」司馬遼太郎著 文芸春秋【918.68 || SH15 || 24】集密D和書

- 「まことに小さな国が、開化期をむかえようとしている。」の出だしから始まるこの作品は、明治期を駆け抜けた3人の男の物語です。明治期は、欧米の列強がアジア・アフリカなどを植民地支配していた帝国主義の時代に、開国したての小さな国が列近たちに肩を並べようと近代日本を築き上げてきた時代です。初め、寺好きの私にとって、明治など戊辰戦争以外全く興味がありませんでした。けれど、この本を読み終えると、洋服を身にまとい、西洋文化を身につけた侍が確かにそこにいたのです。歴史や文化、現在の日本・自分に何が必要なのか、世界における日本の役割を考えさせられる一冊です。ぜひ、一度読んでみてください。(A.F)

- 「幸福な食卓」瀬尾まいこ著 講談社【913.6 || se76】B1F 閲覧室和書

この本は私が大好きな本です。主人公は中学生の女の子なのですが、登場人物の一人ひとりがすごく魅力的なんです。主人公の家族みんながそれぞれ問題を抱えているけど、重くなり過ぎず、最後には心が温まります。

一人じゃないんだ、まだまだやっっていける、そう前向きになれる本です。ぜひ読んでみて下さい。(R.T)

